



ポットラック
プロジェクト
トーク&ワークショップ
開催日 2024/08/23 Fri. **REPORT 07**

S&Dスポーツパーク富士見を起点としてさまざまな世代、さまざまに暮らす市民の皆さんにとっての居場所をつくっていく「ポットラックプロジェクト」のトークとワークショップが8月23日にクラブハウス2階ミーティングルームで開催されました。トーク16名、ワークショップ16名の方が参加され、公園でやってみよう取組について話し合いました。このレポートでは当日の様子や出されたアイデアをご紹介します。

ポットラックプロジェクトって？

自分の楽しみ、やりたいこと、できることを持ち寄る。
小さくはじめる、日常の公園あそび。

本事業は地域の皆さん自身が、公園を「つかう」「つくる」「つなぐ」ことで、さまざまな世代、さまざまに暮らす皆さんにとっての居場所をつくっていく事業です。2023年度から3年かけて取り組みます。「トーク」「ワークショップ」「イベント」の3つのプログラムの中で、公園での過ごし方について考え、企画をつくり、実践。それを繰り返し行うことで、一過性ではない、新しいつながりと日常の中での過ごし方が生まれることを目指します。皆さんが普段の生活で愛用しているもの、やってみたくて思っていることなどを「持ち寄り（ポットラック）」してほしいという想いをこめて命名しました。



2024年度のすすめ方



無理なくイベントを開催したり、集まることができるように話し合っ
て決めた今年度の活動予定です。イベント前後に、準備会やふりかえり
会をこまめに開催しながら今年度の取組を進めていきます。

トーク!

推しの公園を育てる! - 公園ボランティアという関わり方 -

みんなの公園愛護会

かばた りか
椀田 里佳 さん

みんなの公園愛護会とは

みんなの公園愛護会は、公園を支えるボランティアをサポートするための非営利型一般社団法人です。公園ボランティアの実態調査やさまざまな公園の事例紹介などを行い、地域を超えた情報交換や活動のヒントを共有しています。また、公園情報の共有アプリ「PARKFUL (パークフル)」や、公園愛護会が自治体へ各団体の活動状況を共有できるアプリ「PARKFUL Watch (パークフルウォッチ)」の開発を企業と連携しながら行なっています。



公園を楽しむ住民主体のイベント

全国各地の公園で開催されているイベントを紹介します。東村山市の稲荷公園では、毎月公園清掃と自然あそびをセットにした三世代交流の機会をつくっています。横浜市の鴨池公園では、普段環境保全をしているおじさんたちが、子どもたちにのこぎりの使い方や1枚の木板からつくる巣箱の作り方を教えています。また、茅ヶ崎市の北5みんなの広場にはかまどベンチがあり、災害時の使い方に困らないよう定期的に使用しています。この取組は他の公園でも行われ、炊き出しや焼き芋づくりをしている人たちもいます。



公園に継続して関わる活動

公園に継続して関わる活動は、植栽の維持管理と親和性の高いガーデニング関連が多い傾向にあります。ハーブをたくさん植え、その苗をおすそ分けしたりお茶やクッキーにしたりするなど、ハーブをさまざまな用途で楽しむ事例や、落ち葉コンポストで地産地消の循環づくりを行う事例など。自然と触れる活動が、子どもはもちろん、大人にとっても学びとなっているようです。

健康につながる公園での活動

実は、公園で5分間休憩するだけで森林浴と同じ効果があるといわれています。公園ボランティアがいることで公園が気持ちのよい場所になり、来訪者が増えていくと、自分たちだけでなく地域の人の健康にも寄与するという副産物がうまれます。また、公園ボランティアはおしゃれな若者にも注目されつつあり、体にいいことの1つとして自然に触れてリフレッシュできる花壇のボランティアを取り上げる雑誌もあります。

ポイント!!

- 人や地域のためだけでなく自分たちの楽しみを持ち寄って活動すること
- 参加者同士の会話の機会を大切にすることがやりがいや楽しさの1番のポイント

みなさんに参考になりそうな活動をできるだけたくさん紹介しました。推しの公園を育てることをみなさんと楽しんでください!

- 楽しく活動するための工夫
 - ・ 作業時間を決める
 - ・ 規則的な活動日程
 - ・ 無理せず休む
 - ・ 気分が上がるおそろいグッズ
 - ・ 活動の負担を減らす道具



STEP
01

9月16日(月祝)のポットラックピクニックは、テーマを設けてみてはというアイデアが前回のふりかえり会ででした。そこで、今回は実施月が防災月間であることから、はじめての試みとして「防災」をテーマに公園の過ごし方を考えることにしました。



STEP
02

今回は、過ごし方のジャンルごとに3つのグループに分かれて、防災を絡めながらより具体的な過ごし方を話し合いました。ここでは、各グループで盛り上がった意見や内容を一部紹介します。

飲食・体験チーム

- 泥水の浄水体験
- 乾燥野菜づくり
- ダンボールベッドづくり
- 日常から防災を考えられるような親しみやすい体験

ものづくりチーム

- 公園あるきでみつけた自然素材の材料でリース&スワッグづくり
- 誰でも簡単につくることができるおもちゃづくり
- 地元業者の不要な木っ端を使った木工あそび

遊具チーム

- 子どもから大人までリラックスできるブランコづくりアイデアワークショップ
- ブロックを組み立てながら理想の遊具を考えるワークショップ
- 1~2人だけでひっそり遊べるカームダウンスペースの設置

